たむぎやま

平成23年
5月20日発行

新潟県
田麦山地区館

田麦山地区・公民館年間事業

6月5日（日） グラウンドゴルフ大会
パークゴルフ場

8月15日（月） ふれあいソフトボール大会
公民館グラウンド

8月16日（火） 子供みこし
田麦山一円

10月10日（月） スポーツフェスティバル
グラウンドゴルフ大会
パークゴルフ場

10月16日（月） 第39回田麦山地区運動会
公民館グラウンド

10月23日（日） 防火訓練と感謝祭
公民館グラウンド

1月15日（日） 田麦山雪まつりと賽の神
公民館グラウンド

毎月20日田麦山新聞発行

『どうでもいいことですが…』

佐藤 栄吉

最近読んだコラムで、目からウロコ的な面白いのがありました。大雪明けて農繁期の最中でしょうが、ちょっと遊び心で頭を柔らかくしませんか。

（三月は卒業シーズン）その卒業式で唄われる唄といえば、近頃は違う歌が流行しているようですが、年配世代はやはり、「蛍の光」や「仰げば尊し」が懐かしい。・「♪仰げば尊し、わが師の恩…今こそ別れめ、いざさらば」と一番くらいは暗記している方もおおいのでは、と思いますが。ただし、もしかすると「別れめ」を「つなぎ目」とか「境目」と同じ意味合いで歌っていませんでしたか？それは不正解。この場合は意志・決意を表す助動詞「む」の未然形が「め」ですから、「さあ、今から別れよう」＝「今日から一人立ち」の意味合いが正解。

日本人を長い間していても、勘違いで過ごす文字系統はたくさんあります。

例えば、「弁慶読み＝ぎなた読み」と呼ばれる読み方もその一つ。ある講談師が「弁慶が、なぎなたを…」というところを「弁慶がな、ぎなたを…」と言ってしまったことに由来するそうでが、一休さんの話にも「ここではきものをぬぐべし」→（ここで、履き物をぬぐべし）（ここでは、着物をぬぐべし）と違った意味になる。

全く反対の意味になるものとして「けいざいはきゅうこうか」→（経済は、急降下）（経済波及効果）や「きょうはあめがふるてんきじゃない」→（今日は雨が降る、天気じゃない）（今日は雨が降る天気じゃない）等々があります。

毛色が違うものでは、枕草子の作者／清少納言＝清・少納言（中納言や大納言のように地位の意味）と区切るのが正解。

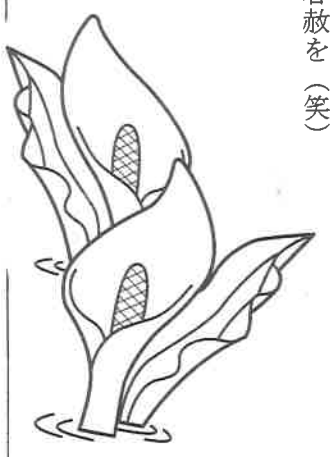
綺羅星の如く＝綺麗・星の如くと区切り、着飾った装いが輝いて星のようだとの意味が正しく、綺羅星という星があるわけではない。

では、唐招提寺は→唐・招提寺（唐の僧である鑑真のためのお寺の意味）が正しい。

また五里霧中→五里霧・中が正解で、五里霧は中国の故事に由来し、五里四方すっぽりと覆うほど広い霧のこと。五里霧のような深い霧の中という意味。

おまけに、ヘリコプターは、ギリシャ語で螺旋（らせん）＝ヘリコ、翼＝プターを合わせた名前ですから、「ヘリ」でなく「ヘリコ」と呼ぶべき（笑）

くどくなりましたが、違う方向に頭を使うのも健康にイイそうですので、一部受け売りですがご披露の次第。ご存知でしたら、ご容赦を（笑）



入学・入園しました。

大渕幸江

四月に長男　朔　が川口小学校へ入学、次女　雛子が東川口保育園へ入園しました。

入園から一ヶ月過ぎ、雛子はやっと慣れできたようで、涙も流さなくなりました。

朔は、体育と休み時間が好きだと言っていて、毎日お姉ちゃんと一緒に大きなランドセルを背負って、元気にバスに乗って学校へ通っています。

たくさんの事を経験して、思いでを作って心も体も大きく成長してくれたらと願っています。

「瞽女（ごぜ）の宿」

星野　恒治

まだ私が小学生の頃である。自分の家の前から沖田んぼを眺めると、大形から大谷内に向う真ん中の辺りに白装束の三人がゆっくりと進んでいる。ああ瞽女が来ていると思った。「ご免なんしょ」と田麦山では聞いた事の無い挨拶とともに歌が始まる。一合くらいの米を布袋に入れてやると丁寧に例を述べて次の家に向う。先導の瞽女は弱視であるが後ろの瞽女は全盲であった。三人の瞽女はやや小柄でガニ股歩きの形であるが。前の瞽女の足に触れないようにする習慣がそうなったのであろう。歩いている時はいつも話しに夢中になっている。無理もない、百聞は一見に如かずであれば盲目の人にとっては千話万話でも語り尽くせなかったのだ。三人の瞽女の姿は子供心にも哀れである。こぼれたご飯も拾って大切に食べる、そうしないとめくらになるという伝説は瞽女の軽蔑ではなく、食料品の重要性を学ぶ雪国の教訓になっていた。

瞽女は長岡瞽女と上越瞽女の二つの団体があったという。私の家内は頚城村の出身であるが瞽女なんて見たことも聞いたこともないと不思議そうな顔をしている。

瞽女の期起源は天皇の皇女が盲目でこの子をなんとかして世に出したいという親の信念から三味線弾きに育てたという説もある。各地に奉られている弁天様もこれと深い関係があることを図書館で知った。放浪の旅芸人とも言える瞽女は各地に瞽女宿が決まっていた。

予定通りに目的地に到着出来ない時は農村の葬儀用器具置場の小屋かお堂の中で夜を明かす事もあったという。田麦山にも大日如来を祀ったお堂が大形に存在しているが田中の森山喜衛門さんの家が瞽女宿になっていた。

きんどこの家（通称）は歴代、人に優しい家系で私も子供の頃からすいぶんお世話になった懐かしい思い出がある。瞽女がきんどこの家に泊まる日、祖母と歌を聴きに行った。入れてもらったのか胸をはだけて涼しそうに座り「こっちがフー、こっちがトー」と呪文を唱えて説得力がある。意味は良くわからないが言うことを聞かないと罰が当たるような恐ろしさを感じた。

厳しい掟に生きる瞽女の世界で家族のように応対してくれる「きんどこ」の家の人達にこの日の瞽女は心身癒され、生きる喜びを感じる忘れ得ぬ一夜になったのに違いない。

お知らせ

主催　　蕎麦の会
開催日時　6月12日　日曜日
会場　　田麦山公民館

田麦山ロードレース終了後に蕎麦の会を開催致します
天ぷら付き蕎麦一杯500円です

「編集後記」

大雪で遅れていた田植えもようやく、始まりました。
夜はテレビを消して、外に耳を傾ければ、にぎやかなカエルの　声も聞こえますよ